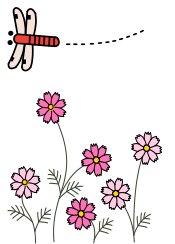


ながひさ



傷つけない「教育よりも、傷つきにくい心に鍛える」教育を！

「レジリエンス(立ち直る力)を育てる」

笠井修

今年度の学校要覧・めざす児童像の「がまん(根気)強くやりぬく子」の項目の中に、『レジリエンス(立ち直る力)の育成強化』を加えました。

子どもたちの様子の中で「ちよつとしたことで泣く」「できないとすぐにあきらめる」など、嫌なことがあったときの行動で心配になった経験はありませんか。子どもだけではなく、近頃の若手社員にも同じような傾向があるようです。企業の経営者は、社員の様子について次のように感じているそうです。「ちよつと注意したり叱ったりすると、落ち込んで仕事が手につかなくなったり、ムツとした表情で言い訳したりする。ひどいときには、翌日から休んでしまったり、逆ギレして騒ぎ立てたりする。」このような傾向から、新社会人に必要な能力のひとつとして、叱られたときの受け止め方が注目されており、新入社員の中には自分の成長につなげるために、入社前に「叱られ方研修」を受けている大学生もいるらしいです。

このように、生きる力の一つとして、近年注目されているのが、嫌なことや困難なことに直面し、一時的に気持ち落ち込んでいても、忍耐力や柔軟性をもって立ち直ることができる力(レジリエンス)です。昨年度、「長久小学校の子どもたちにつけさせたい力」として、地区懇談会で話し合ったり、学校評価アンケートに記入されていたりした中にも、忍耐力や立ち直る力をつけさせたいとの意見が多くありました。人生は山あり谷ありというように、生きていれば楽しいことや嬉しいことばかりでなく、苦しいことも辛いです。思い通りにな

らないこともたくさんあります。生きていく限り、そんな人生を前向きに力強く歩んでいかなければなりません。だからこそ、ちよつとやそつとのことでは挫けない心のたくましさ子どもを育てることが大切になってきます。

レジリエンスとは、復元力と訳され、困難な状況でも諦めずに頑張る力、挫折して一時的に落ち込むことはあってもすぐに立ち直っていける力を指します。では、どうしたらレジリエンスの高い子どもを育てることができるのでしょうか？レジリエンスが高いと言うことは、自己を肯定できるということであり、自分の頑張る力を信じられるということです。そしてそれは、自尊心や自己効力感と強く関係しています。

● 自尊心を育てる

親や教師をはじめとした大人が、子どもを信頼し、過保護にならないこと、大人自身がどつしりと構えていることが大切です。挫折を経験中の子どもを励ますときも、どんなことがあってもきつと立ち直れると信じてあげること。根気がなく、すぐに挫ける子どもを叱咤激励するときも、まだ根気がたりないけれど、そのうち頑張れるようになることから信じてあげること。反抗的な子どもを叱るときも、今は反抗していても、きつと気持ちは伝わるはずだと信じて毅然と叱ること。どうしようもないことばかりをする子どもを叱るときも、本人だって苦しいはずだし、こんなことをしてはだめだとわかる日がくると本気で信じてあげること。このような態度が子どもの心の中に安定感のある自尊心を育てます。

● 自己効力感を育てる

逆境でもへこたれない子どもは、自分は頑張りが抜くことができるといった感覚を身につけています。子育てや教育で大切なのは、過保護にして挫折から守ってやるのではなく、挫折を経験させつつ、挫折に負けない力をつけさせることです。頑張って逆境を乗り越える経験をする中で自己効力感が培われていき、「自分もやればできる」と思

えるようになります。そのために、適度な負荷をかけること、困難に直面させることも必要になってきます。子どもが挫折しないように先回りして障害を取り除けば、逆境に弱い人間になり、将来子どもが苦勞する事にもなります。難しい状況に追い込まれても必至に頑張り、なんとか壁を乗り越えることができる経験をしたとき子どもは「自分もやればできる」という自己効力感が身についてきます。たとえ、結果が伴わなかった場合でも、挫折感と共に必死に頑張った充実感や爽快感を味わうことができるため、「自分も頑張ることができると」という意味での自己効力感が得られます。

子どもの様子に気を配りながら、直接的なサポートばかりに走るのではなく、間接的なサポートにも心がけるべきときもあります。決して無関心に放置するのではなく、子どもの試行錯誤の機会を奪うことなく、子どもの力を信じて温かく見守ることが大切だと思います。

先日の校内運動会を通して、子どもたちは、様々な課題に直面しながら、それに対して力を出し切りました。中には望んだ結果が得られなかったかもしれませんが、そのような活動の中にも、子どもたちは自分の感情をコントロールすることを学び、一回り大きく成長したと感じています。

2学期児童の様子 学級だよりから

【二学期 はじまって一週間】一年生

朝、教室で待っていると、元気な声で「おはようございます」と挨拶ができる一年生。汗だくで「暑い」と言いながら登校した二学期始めの一週間の終わりました。持ってきた水筒の飲み物が午前中でなくなることもあるほど、毎日暑いですが、みんな元気に登校できています。



【銀山新聞発表会】六年生

昨日は、1学期の銀山学習のまとめで作成した銀山新聞の発表会を行います。

した！自分の学びが友達に伝わるよう、相手意識をもって表現の工夫をしていました。

【運動会の練習が始まりました】二年生

火曜日から運動会練習を始めました。二年生は、各色でめあてを決め、デカパンリレー(団体種目)の練習をしました。デカパンリレーの練習の中で、デカパンの受け渡しができるか話し合い、作戦を立てました。走りもすれば早く受け渡しができるか話し合い、作戦を立てました。走りもデカパンのパスも相方や次の走者を思いやった良い方法を見つければよい工夫しようとしています。どんな作戦を立てたのかも見どころです。運動会の練習を通して、他者を思いやることへのヒントを見つけてもらえるよう指導していききたいと思います。



【十月の行事予定】

- 一日(木) 六年生 修学旅行 松江方面
 - 二日(金) 〃
 - 七日(水) スクールカウンセラー来校(A.M)
 - 九日(金) 一年生 遠足 手引きが丘公園
 - 十四日(水) 二年生 遠足 サヒメル
 - 十八日(日) 県防災訓練
 - 二十一日(水) 歯科検診
 - 二十二日(木) 五年生 宿泊体験学習 三瓶
 - 二十三日(金) 〃
 - 二十七日(火) 三年一組熊谷家昔の暮らし体験
 - 二十八日(水) 三年二組熊谷家昔の暮らし体験
 - 二十九日(木) 一年生保護者給食試食会
- 授業公開十三時三十分 一年～三年
授業公開十四時三十分 四年～六年